



Contents

はじめに	3
小城市ってこんなところ 1	4
小城市ってこんなところ 2	5
スローライフって?	6
スローライフがもたらすもの	7
スローライフによって具体的にどうなる?	8
小城流スローライフのテーマ	9
小城流スローライフ体系図	10
小城流スローライフ展開方法	11
3つの分野から探ってみる	12
・環境・自然	13
・文化・歴史・暮らし	15
・交流・ふれあい	17
活動方針 5つの約束	19
スローライフ事業メニュー	20
スローライフ事業メニューに賛同していただきたい団体	28
「すでにスローライフな視点で取り組みが行われているもの」と 「市役所の取り組み」	29
小城のスローライフを定着させ広めるために	30
さらなるステップアップとして	31
資料編	32
・小城スローライフの種	32
・スローライフ広場（市報連載）	34
・スローライフ研修会で	46
・スローライフ小城の会メンバー	50
・小城市百選	52

はじめに

～和で織りなす美しい小城市～をめざして

▼小城市の素晴らしい自然や歴史、伝統、文化、食を大切にし
▼その良さを身近に感じ▼それらを活かすことによって▼小城市で暮らす価値に気づき▼「緩急自在」で個々にあった暮らしを行うことを提唱し▼総合計画の基本目標である「『和』で織りなす 美しいまち」を目指します。

*総合計画で目標としている『美しいまち』は、「人の内面からの美しさにより、本物の「美しいまち」がつけられる。そしてそれは、市として、人もまちもあらゆる面で質の高いものとなっていく。」としています。

(会長一言メッセージ)

小城市は小京都と言われるほどに、京都のような自然や景観を尊ぶ精神を長い歴史のうちに醸成し、豊かな生活文化を保持し創造してきました。

スローライフはこの地における「水」を中心として、環境から生活文化に及ぶ豊かさをライフスタイルにつなげるテーマであり、このことが未来においてもさらなる豊かさを享受する重要な行動指針であると考えられます。

天山から有明海に連なる多様な資源と、それをつむぐ「水」を中心とした小城市のスローライフが次代への大いなる遺産となることを希望しています。

スローライフ小城の会 会長 村岡 安廣

小城市ってこんなところ 1

小城市は、佐賀県のほぼ中央に位置し、佐賀市の中心部まで約10km、福岡市へ約70km、長崎市へ約100kmの距離にあり、北と東は佐賀市、西は多久市及び江北町、南は白石町に接しています。

地勢を見ると、北部には天山山系の山々が連なり、中央部から南部にかけては広大で肥沃な佐賀平野が開けていて、農業用排水路のクリーク地帯が縦横に広がり、南部は日本一の干潟を有する有明海に面しています。天山山系に源を発し流れ下る祇園川、晴気川、牛津川は、扇状地を形成し、肥沃な佐賀平野を潤して有明海へと注いでいます。ここでは、日本一の海苔、おいしいみかんやお米が作られています。

総面積は95.85km²、人口は約47,000人です。



小城市ってこんなところ 2

小城市には、小さな面積の中、つぎのような100選が存在しています。

「日本の名水百選」→『清水川』（昭和60年）

「ふるさといきものの里百選」→『祇園川のゲンジボタル』（平成元年）

「日本さくら名所100選」→『小城公園の桜』（平成2年）

「美しい日本のむら景観百選」→『江里山地区』（平成3年）

「日本の棚田百選」→『江里山の棚田』（平成11年）

「日本の歴史公園100選」→『小城公園』（平成18年）

「美しい日本の歴史風土100選準100選」→『小城鍋島家城下町の遺産』
(平成19年)

国・県・市の史跡、及び重要文化財、国登録有形文化財も多数あり、22世紀に残す佐賀県遺産については、県内23のうち7つも存在します。

《牛津れんが館、牛津町会館、小柳酒造、天山酒造、日本福音ルーテル小
城教会、深川家住宅、村岡総本舗小城本店・村岡総本舗羊羹資料館》

(認定当時の名称)

また、世界で唯一のムツゴロウ・シオマネキ保護区があります。

このように貴重な資源が豊富にある小城市は、弥生時代から、鎌倉、江戸と、重なり合う歴史が感じられるまちです。

